

令和2年度「総括評価表」(徳島県立城南高等学校)

評価・評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善の方策	
重点目標	重点課題	具体的な対策とその評価指標(⇒印)	活動の実施状況と評価指標の達成度(⇒印)	総合評価(所見)		学校関係者の意見
学力向上の推進	教員の教科指導力を高め、ICT等を活用し、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業を実践する。	各学期に設ける授業参観週間での教員相互間による授業見学や、年間2回の生徒への授業アンケートを実施し、教科指導力の向上を図る。 ⇒生徒による授業満足度80%以上	教師それぞれが、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業に努め、授業評価を1学期末・2学期末の年2回実施した。各学年・教科で授業方法の研究や改善、学習方法について生徒に説明を行った。 ⇒生徒による授業評価での授業満足度は 1年生 91.4%(昨年度91.1%) 2年生 91.9%(昨年度87.9%) 3年生 92.6%(昨年度91.6%) であった。	A ----- 授業満足度は目標を上回っており、すべての学年で年次進行で上昇している。生徒の学力を伸ばし、希望進路の実現に向けてさらに授業改善に努めていきたい。	・今後も生徒が学びがいを感じながら切磋琢磨し、学力を向上させていけるような授業を展開してほしい。 ・ICTを活用した授業を今後も展開してほしい。併せて、保護者対象に、ICT活用に関する研修を実施することも検討してほしい。	現在の学びが自分の将来にどのようにつながっていくのかを理解させるとともに、「自主・自立」の精神のもと、生徒自らが学ぶ姿勢を育てていきたい。また、電子黒板やスタディーサプリを積極的に活用し、それぞれの生徒にわかること・学ぶことの楽しさや素晴らしさに気づいてもらえるよう、さらなる授業改善を図っていきたい。
人権教育の充実	人権尊重の精神の積極的な啓発に努め、人権意識の高揚を図る。	①人権啓発行事(人権展・人権映画等)を実施し、人権啓発新聞「TOMORROW」を発行する。 ⇒「TOMORROW」の発行を年間3回以上 ②ヒューマンライツ部を中心に支援学校との交流を進める。 ⇒交流会を年3回以上実施	①映画会については、新型コロナ感染防止のため中止した。 ⇒人権啓発新聞「TOMORROW」の発行 3回 賀川豊彦展開催(2/12~22) ②文化祭での交流会が中止になったため、本校人権委員会を中心に人権展を実施した。 ⇒聴覚支援学校との交流会1回実施	B ----- 人権委員会の一層の活性化と活動の成果を他の生徒に広げられるような工夫を考えていきたい。	・コロナ下でもできる取組を工夫してほしい。	講演会や研修、映画会については、コロナ下でのあり方について検討を進めたい。
生徒指導の充実	遅刻防止に努め、保護者と連携して生活改善を図る。	遅刻防止については、担任による常時指導(家庭への連絡を含む)とともに、遅刻常習生徒について10回の時点で生徒指導課による生活習慣指導を行い、15回で保護者来校の上生徒本人を交えて、担任や学年主任、生徒指導課長で生活改善について話し合う。 ⇒遅刻率1%以内、遅刻ゼロの日年間8日以上	本年度は、学校全体の遅刻ゼロの日は2日で昨年度よりも5日減った。遅刻総数については昨年度よりも57件減少した。昨年度と同様に9月以降の遅刻が多く特に1月が多かった。また2・3年生の遅刻が非常に多かった。遅刻10回で生徒指導課で面談した生徒は4名で15回で保護者も含めての面談を実施した生徒は2名であった。本年度0.98%で目標の1%は達成した。今後とも遅刻を減らすよう指導していきたい。 ⇒全校遅刻率は0.98%、遅刻ゼロの日は全校で2日であった。学年ごとでは、 1年生遅刻率0.67%・遅刻ゼロ63日 2年生遅刻率1.21%・遅刻ゼロ16日 3年生遅刻率1.38%・遅刻ゼロ17日 であった。	B ----- 遅刻目標値は達成できた。遅刻者数については、2・3年生が特に多かった。9月以降の遅刻をいかに改善していくかが課題である。	・交通事故の件数を減らすための指導や取組が望まれる。事故を起こさないためにも生徒・家庭への時間にゆとりを持った行動を常に促してほしい。 ・自転車の運転マナーについて、繰り返し指導をしてほしい。	遅刻率では1年生が1%を下回っており、2・3年生が1%を超えている。全体的に2学期以降において指導が必要だと感じる。雨の日の交通渋滞による遅刻をいかに改善するかが毎年の課題である。
進路指導の徹底	家庭学習の重要性を理解させ、自ら学ぶ姿勢を育成し、学習習慣の確立に努める。	「自主自立ノート(生活記録)」や面談等を利用して生徒に家庭学習の重要性を認識させる。家庭学習時間調査を定期的実施し、生徒の学習の状況を教員間で把握する。各教科で週末課題や宿題を課すなどして学習習慣の定着を図る。 ⇒ a 家庭学習時間調査を年8回実施する。 b 一週間の家庭学習時間の学年平均目標は、 1年生16時間以上 2年生16時間以上 3年生21時間以上	毎日の「自主自立ノート」を継続的に記入することで、生徒が自身の時間管理をすることにつながった。また、担任は生徒の学習状況を把握し、その結果をもとに各教科で学習習慣の定着を図る取組を行った。 ⇒連続する7日間(1週間)の家庭学習時間調査を年間6回実施した。 1週間当たりの家庭学習時間の平均は、 1年生 16.6時間/週 2年生 16.2時間/週 3年生 21.3時間/週 であった。	B ----- すべての学年で家庭学習時間が目標を上回っている。家庭で学習することの必要性を繰り返し指導し、部活動との両立をしっかりとやり遂げさせたい。	・家庭学習の必要性和、勉強と部活動との両立をやり遂げるための有効な時間の使い方ができるような指導を、学校全体でしっかりと取り組んでほしい。 ・進路指導の充実を図り、難関大学への進学を目指す学力を持つ生徒を育ててほしい。	進路目標の実現には高い学力が必要であるということを生徒たちにしっかりと理解させ、毎日の宿題や小テストの実施などの取組みを通して、日頃から家庭学習をする習慣を身につけさせたい。 家庭学習を習慣化させるためには規則正しい生活リズムの形成が必要である。本人に自覚させることは当然必要であるが、保護者にも協力を要請していきたい。
特別活動の充実	特別活動・部活動の活性化と、教育相談活動の取組を通して、学校生活の充実を図る。	①学校行事について生徒会と意見交換を行い、より良い行事内容になるように努める。 ⇒生徒による学校行事満足度80%以上 ②部活動は顧問の専門性を配慮して配置し、日々の指導において現場での指導を充実させる。 ⇒生徒による部活動評価の満足度80%以上 ③スクールカウンセラー制度を利用するなどして、支援を要する生徒への支援体制を整備・充実する。また、生徒の相談に随時対応できるよう教育相談室を整備し、昼休みに開放する。 ⇒教育相談室を整備し生徒への開放年間70日以上	①生徒会との意見交換を活発に行い、コロナ感染症対策を講じながら充実したものとなるように努めた。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの学校行事満足度は69%であった。 ②専門性、本人の希望に応じて顧問を配置し、日々の指導も生徒との会話を重視して行っている。 ⇒生徒による学校評価アンケートでの部活動満足度は88%であった。 ③スクールカウンセラー制度をよく利用し、年間15日カウンセリングを行った。 ⇒今年度は、教育相談室がコロナ対応の控え室となり、計画的な利用はできなかったものの、生徒課だよりに心のケアに関わる内容を入れるなど、生徒の心理的サポートに努めた。	B ----- 部活動は充実している結果が出たが、学校行事においては、コロナ感染症対策のために、例年通りに実施できず、満足度は大きく下がった。 次年度も積極的にスクールカウンセラーを利用していく。	・部活動の取組でも、スポーツや文化活動での活躍を、新聞などでよく見る。勉強にも部活動にも意欲的に取組む「文武両道」の精神を今後とも続けてほしい。	今後も生徒会との意見交換を行い、コロナ感染症を取り巻く状況を鑑みながら、行事のあり方や実施方法を検討していく。 また、顧問同士の対話や部員と教員との対話を多くとることで、部活動内の状況把握に努め、生徒理解を深める。
情報・防災・消費者教育等の推進	防災教育や消費者教育を推進し、次代を担う人材の育成に努める。	①防災について関心が高く、社会に貢献できる生徒を育成する。 ⇒生徒の関心度70%以上 ②持続可能な社会について考え、実際に行動できる生徒を育成する。 ⇒生徒の行動割合80%以上	①今年度初めて9月に環境防災ホームルーム活動を実施し、「防災意識を高めよう」というテーマで環境防災委員によるプレゼンテーション・学校周辺のハザードマップについての学習を行った。1年75%・2年77%・3年80%の生徒が防災について関心があり、指標を達成することができた。 ②探究の授業や家庭基礎、環境美化・エシカルクラブの活動などを通して持続可能な社会について考えたが、1年51%・2年55%・3年67%と低かった。	B ----- コロナ禍の中ではあるが、できる防災教育を考え実践することができた。生徒ホールの環境防災掲示板も充実させることができた。 学年が上がるほど数値は上がっているため、啓発・広報・実践を促していくことは大切である。	・生徒が「自分ごと」として防災に取組む活動を今後も続けてほしい。 ・現在の1年生から18歳成年となるため、消費者教育や主権者教育は非常に重要だ。全ての学年で生徒が学ぶ機会を設けてほしい。	防災教育については、高い関心があることがわかった。防災訓練がマンネリ化しないよう内容の充実を考えていきたい。また、環境防災ホームルーム活動は毎年9月に実施することとし、環境防災委員の活動として実施したい。 現在の1年生から18歳成年となるため、消費者教育は重要となってくる。1年次でしか学習しないことが課題であるが、学校生活のあらゆる場面で伝えていく必要がある。持続可能な社会については、ゴミの分別を徹底させ、自分の行動に自信を持てる生徒を育てたい。

<p>望ましい校風の樹立</p>	<p>スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組を推進するとともに、成果の普及を図る等、学校からの積極的な情報発信を行い、自主自立の校風を踏まえた新しい教育の創造に努める。</p>	<p>①スーパーサイエンスハイスクールの取組により、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的な学力を定着させるとともに、発展的な応用力も身に付けさせる。 ⇒SSHの取組により理科や数学の興味・関心が深まり、その理解が深められたと自己評価する生徒70%以上</p>	<p>①SSHの課題研究や数理科学の授業など、様々な取組を通し、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的・発展的な力が身につくよう努めた。 ⇒応用数理科3年生に実施したアンケート・自己評価で3年間の活動に対する「満足」73%、科学的な見方・科学的に問題解決する力が身についたとする生徒68% プレゼンテーション能力が向上したとする生徒80% レポート作成能力が高まったとする生徒80% 研究方法や技能の習得ができたとする生徒70%</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>SSHの活動に対してはどの項目でも評価が高く、3年間の活動が充実していたことがうかがえる。コロナ禍で校内外のいくつかの発表会や科学イベントが中止となったが、本校企画のものについてはオンラインを活用し、実施に努めた。課題研究では高い評価をいただき素晴らしい成果を残すことができた。今後も生徒の主体性を育成し、能力の向上や各種コンテストでの成果獲得を図っていききたい。 生徒は、探究活動に前向きに取り組んでいる。学年が進むにつれ、バランス良くジェネリックスキルを身に付けていっていることがうかがえる。今後、更に教員間における「探究」への共通理解を図っていききたい。 積極的な情報発信のため全ての分野での更新と魅力あるページの作成に努力したい。</p>	<p>・SSHの「課題研究」や普通科の「総合的な探究(学習)の時間」の成果が、さまざまところで評価されている。高大連携等も発展させ、学校全体として取組んでほしい。 ・「理系女子」を増やす進路指導の取組をしてほしい。 ・各種科学賞で素晴らしい成果を収めている。その成果をHPや学校案内を通じ発信してほしい。 ・ホームページについては、どこにどのような情報があるかわかりづらい点もあるため、レイアウトを工夫してほしい。また、進路指導関係の資料もホームページに掲載してほしい。</p>	<p>文科省のSSH第4期の指定を受けて、課題研究の指導や高大連携についてさらに発展させるとともに、ルーブリックやアクティブラーニング等の情報収集と研究、そして実践を行った。 ルーブリックの研究実践は、生徒の主体的な課題研究の内容向上や教員の指導力強化につながっている。 今後、SSHの取組等の成果を評価するシステム構築やSSHの取組の学校全体への波及、また「チャレンジ授業(研究授業)」の充実も必要である。</p> <p>来年度はホームページのリニューアルも予定されているため、より多くの方に見ていただけるようなホームページを作成・更新するように努める。 更新の仕方の研修を実施できるように計画を進める。</p>
<p>②科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図る。 ⇒各種科学賞等での入選数7以上 ⇒全国大会への出品2以上</p>	<p>②理科担当教員による放課後の指導等により、科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図った。 ⇒日本学生科学賞徳島県審査で最優秀賞1、優秀賞3、入賞2など。 ⇒全国高等学校総合文化祭自然科学部門オンライン発表 ⇒中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表会紙面発表 ⇒スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会オンライン発表</p>					
<p>③活動成果の県下への普及を図る。 ⇒小学生及び中学生対象実験教室の実施2回以上 ⇒県下の科学部を対象とした研修会の実施2回以上</p>	<p>③⇒中学生対象理科実験教室を1回実施した。 ⇒徳島大学と共同で、徳島県SSH高等学校課題研究および科学部研究研修会を2回開催し、延べ4校314名の生徒に参加してもらうことができた。</p>					
<p>④普通科「探究」の充実を図る。 ⇒成果発表会の実施1回以上 ⇒自己の在り方生き方を考えながら、主体的に問題を発見し解決する力を養う「探究」活動への生徒満足度70%以上</p>	<p>④⇒成果発表会を2回実施した。 ⇒「探究」活動への生徒満足度は、1年96%、2年91%であった。また、探究活動で身についたスキルは何かという質問に対して、1年生は、ジェネリックスキルのうち多くが情報収集力を挙げていた。2年生は、個人によって身に付けたと考えるスキルをさまざまに挙げていた。2年生はコロナ下においてもズーム等を利用するなど活発に外部と連携した探究活動を行い成果を上げた。</p>					
<p>⑤積極的な情報発信に努める ⇒ホームページの更新回数、月10回以上 ホームページへのアクセス数 年間450,000件以上</p>	<p>⑤今年度はコロナ感染症対策による臨時休業の影響で4月5月の更新頻度が通常より多かったが、学校再開後もコンスタントに更新することができた。ホームページの更新回数は月平均15回である。しかし、更新できているページと全くできていないページの差が見られた。 ホームページへのアクセス件数は1年間で約55万件となり、昨年より大幅に増えた。これもコロナ下の影響が反映されているためであると考えられる。</p>					